

GLOBAL MIND

GLOBAL MIND IS THE SPIRIT OF OSAKA INTERNATIONAL GROUP

大阪国際大学 (OIU)
OSAKA INTERNATIONAL UNIVERSITY

大阪国際女子大学(OIUW)
OSAKA INTERNATIONAL UNIVERSITY FOR WOMEN

大阪国際女子短期大学(OICW)
OSAKA INTERNATIONAL COLLEGE FOR WOMEN

大阪国際 滝井高等学校 大阪国際 大和田高等学校
大阪国際 大和田中学校 大阪国際 大和田幼稚園
大阪国際 滝井幼稚園

発行/学校法人大阪国際学園広報室 〒570守口市藤田町6-21-57 TEL.06(902)0787(代) FAX06(902)8961

晴れの卒業式1,542人巣立つ(3大学)、総勢2,350人

希望いっぱい喜びの門出



華やかな着物姿が大半の短大卒業証書授与式
(3月15日、奥田メモリアルホールで)



国際大の卒業証書・学位記授与式、奥田学長の祝詞を
受け274人が巣立っていった。
(3月25日、大講義室で)



大和田中・高校の卒業証書授与式
(2月25日、奥田メモリアルホールで)

皆さん、ご卒業誠にありがとうございます。
本学では新たな教学理念を定め、国際人の育成に向けた新しい大学づくりに努めているが、《真の国際人》への道のりは遠く、険しい。
昨年まで、ガットのウルグアイ・ラウンドにおけるコメの市場開放問題が大きな政治課題でした。市場開放を強硬に迫るアメリカと難交渉の末に結局日本は受け入れたが、日本側の主張、アメリカの言い分などを我々はマスコミを通じて知り、貿易立国のわが国として「受入れやむなし」、「主食を自由化しては安

全保障にかかわる」等、賛否両論があった。しかし、果たしてこの重要な課題の選択について、我々はどこまで真剣に国民的議論をしたのか。国際社会で日本、日本人がどう生きるかは、外圧ではなく、

真の国際人として活躍を

奥田省吾学長 式辞

自らの意志・選択によるのは当然です。主体性を持つて相手に対処するには、研鑽によって自らの立場や考えを明確にせねばならず、その積み重ねが、結局はこの国際社会

における日本の、日本人の役割を果たすことにつながると思います。
日本人はどれほどのコメを食べているのか。年間一人当たり70kgだそうで、一日に一合少し。宮沢賢治の詩「雨ニモ

大阪国際女子大では、3月14日(月)午前10時より奥田メモリアルホールで平成5年度卒業証書・学位記授与式が挙行政。食物学科46人、被服学科57人、児童学科59人が卒業。また大阪国際女子短大は、卒業証書授与式が15日(火)に奥田メモリアルホールで2回に分けて行われ、午前10時から家は

政科276人、英語科250人が、午後1時から幼児教育科216人、国際文化学科364人が卒業した。女子大・短大へは卒業生からの記念品として姿見5点が寄贈され、また、それぞれの同窓会から卒業生に記念品が贈られた。式の最後に大阪国際グループキャンパスイメージソング『夢が

咲く木』を斉唱する頃には涙を流す姿も見られた。
大阪国際滝井高校では卒業証書授与式が2月26日(土)体育館で行われ370人が卒業。また、大阪国際大和田高校・中学校は2月25日(金)に奥田メモリアルホールで挙行政、それぞれ325人、66人が巣立って行った。

昇の一途をたどり、輸入米は敬遠されて国産米は店頭から姿を消した。何よりもまず、消費者が冷静に対応し、賢い消費者に徹することが求められている。皆さんもこれから社会人、主婦、母親として長い人生を生きたるうえで、本学で学び磨かれた教養をもって生きて下さい。
本学は関西国際空港で新世紀、国際舞台に雄飛したいと決意しており、あなたたちにもぜひ大きな舞台で賢明に生き、活躍されますことを祈念してお祝いの言葉とします。
(大阪国際女子大学・短大で卒業証書授与式式辞要旨)

大阪国際大・大阪国際女子大・大阪国際女子短大3大学の連携・交流を促進するため、平成4年度から3大学間で、主として講義科目の単位互換制度がスタートしているが、新年度から短大学科間での相互履修も可能になる。
積極的で意欲の高い学生にとっては、魅力いっぱいこの制度。他大学・他学科の授業に参加して勉学の幅を広げるだけでなく、大学祭やクラブ・サークル活動での交流による活性化という効果もあり、ぜひ利用してほしい制度のひとつである。
平成5年度、女子大から国際大の授業を履修している学生は4人、短大からは18人。それぞれ自分の興味や専攻と結びつけて、例えば、国際文化学科国際ビジネスコースの学生が「比較文明論」を履修したり、情報文化コースの学生が「産業史」を履修するなど。
短大の学科間の場合は、15単位まで履修でき、所属学科の専門教育科目の単位を修得したものと認められる(ただし、他大学等で修得した単位とあわせて15単位まで)。

希望に胸ふくらませながらも一抹の不安顔の卒業生、寂しさを秘めて期待の拍手で送り出す先生や後輩らの思いが交錯する卒業の式典。平成5年度の卒業生は3大学で1542人中・高校と幼稚園も合わせ学園全体では2350人が巣立っていった。大阪国際大生は3期生として、大阪国際女子大・短大生も新大学名を背負って社会に飛び出した。奥田学長は「グローバルマインドをこれからはもって、真の国際人たれ」と励まし、それぞれの卒業生は教職員や後輩に祝福されて、さっそうと新たな一歩を踏み出した。

5月～7月にOIUを会場に 枚方市立大学講座を開催 メインテーマ「大転換期の日本」

	とき	講 師	講 義 内 容
第1回	5/14(土)	副学長・教授 市村 眞一	・アジア諸国の動向と日本の役割
第2回	5/21(土)	政経学部 助教授 古賀 敬太	・冷戦後における日本とドイツの歩み
第3回	5/28(土)	政経学部 教授 増田 英夫	・異文化理解について
第4回	6/4(土)	政経学部 助教授 松井 嘉和	・国際化時代と日本語の広がり
第5回	6/11(土)	経営情報学部 教授 柴山 守	・コンピュータ知能は人間を超えるか —「ことば」とコンピュータ—
第6回	6/18(土)	政経学部 講師 佐々木弘志	・中高年の健康・体力づくり
第7回	6/25(土)	経営情報学部 教授 竹之内 脩	・300年懸案のフェルマ問題の解決
第8回	7/2(土)	政経学部 教授 山本 勇次	・現代の日本青年は何故マンガを読むのか?
第9回	7/9(土)	経営情報学部 教授 庄林二三雄	・地域産業としての関西の映画産業
第10回	7/16(土)	政経学部長・教授 岡本 幸治	・いま、なぜ、どんな転換期なのか —世紀末と日本の対応—

短大学科間の相互履修も可能に 新年度から実施

が開き、昨年は「メセナひらいた」で催し、市村副学長ら4人が講師を務めた。今回は会場、講師ともに本学が引き受ける。「大転換期の日本」をメインテーマに、10回にわたって各講師が専門に基づいた講演を行う。
募集300人で、応募資格は18歳以上の市内在住、在職、または在学者で、全講座受講が可能。いずれも午後2時半から4時半まで無料。
応募は、4月22日までに枚方市大垣内町2の1の20、同教委社会教育課社会教育係まで往復ハガキで。問い合わせは、社会教育課(42/1221 内線562)まで。

滝井高 みごと優勝

春の高校バレー 2年ぶり2度目



「若さでアタック!」春の高校バレー―第25回全国選抜優勝大会全国大会で滝井高バレー部は見事、優勝を

保護者、OGたちや長距離バスで駆けつけた生徒らも必死の応援

闘志と粘り、激戦勝ち抜く

キャンパスREPORT

3年連続6回目の出場。自分たちのバレーを守って確実に勝ち進み、準々決勝では優勝候補の一角である東京代表の共栄学園を2-0で下し目標のベスト4入り、準決勝では京都代表・北嵯峨高校をフルセット逆転で破り決勝進出。「このまま一気に優勝へ」と、最終日までホテルを予約していた保護者らは歓喜に沸き、学校から準決勝・決勝に向けて派遣された第2次応援団も興奮のつぼ。そして決勝戦、長崎の強豪・九州文化学園をフルセットで破りついに全国を制覇した。

昨年度の大会では2回戦敗退と

国際交流



モンテレー工科大の美しいキャンパス

初のスペイン語圏姉妹校

モンテレー工科大と提携へ

メキシコの私大でトップクラス

OIU、近く協定書

国際大ではこの度、メキシコの私大ではトップクラスであるモンテレー工科大学との姉妹校提携の話がまとまり、4月、協定書を交わすことになった。

同大学は、1943年に設立。26カ所のキャンパスを持ち、学生総数は約5万5千人。学部構成は、大きく分けて経営学関係と工学関係のいわゆる「有力」

有名大学で、OB・OGは政府機関を始め大企業内で幅をきかせている。

一昨年12月、経営学部のカルロス・ルイ・マルティネス教授が来学。また昨年3月には国際大の国際交流センターから派遣して、提携に関する詰めを行った。

94年度は、同大学から1人交換留学生を受け入れる予定。こちらから学生を派遣した場合、授業は英語で受けることになるが、初のスペイン語圏の姉妹校であり、学生にとっては新たな異文化体験の機会が広がったといえる。

長期交換留学 3学生決まる

OIU 協定校派遣

6月から協定校へ1年間留学する平成6年度長期交換留学生が以下の通り決定した。

福本晃治君(経営情報学部2年)

グローバルマイシンド賞入賞者決まる

OIU

第6回グローバルマイシンド賞の入賞者が決定した。今回は「世界中の日本と私」をテーマに全国の高校生から59編の応募論文が寄せられた。

4人の審査員、梅村忠氏(財千里文化財団会長、岡本道雄氏(科学技術会議議員、元京都大学総長、高坂正典氏(京都大学教授)、市村真一(副学長の審査の結果、入賞者は以下のように決まった。

マダラナプリ賞 藤崎淳子さん(静岡星美高校2年)

副題「国際人になるための条件」

準グランプリ賞 菅原美和さん(平塚江南高校1年)

大和田中、恒例の豪州へ海外研修

高校希望者の初参加

大和田中学では、オーストラリアでの海外研修が3月17日から29日まで実施された。

2年生62人全員に加え、今回初めて高校英数コースの希望者5人も参加した。

一行は、シドニー観光などの後タスマニア入りし、姉妹校であるロビンソン・チャーチ・グラマースクールとセントマイケルズ・カレッジエイトスクールに分かれて1週間のホームステイを体験。セントマイケルズ・カレッジ

次生)サンディエゴ州立大学へマ竹岡英二君(同)ノーザン・ブリティッシュ・コロンビア大学へマ加古圭介君(同)エルマラカレツジへ

米、豪へ学年末海外研修

OIU・CWの94人

2月、平成5年度学年末海外研修が実施された。1日出発のアメリカ語学研修・オーストラリア語学研修には各々34人・40人が参加、午前中は研修先でみっちり英語授業、午後と休日には自由行動や観光を楽しんだ。

また、大自然ファームステイ(豪)は8日に出発、学生20人は幾種類ものファーム見学や乗馬、射撃などのスポーツを満喫した。3グループは28日、全員無事に帰国した。

セントルイス 英語研修へ27人

OIU

第4回セントルイス・コミュニティ・カレッジ英語研修が実施され、台湾からの学部留学生1人を含む27人が参加した。2月20日から3月29日までの38日間、大学で研修中は、同大学の学生がアドバイザーになるチューター制度や、ホームステイなど生の英会話を学ぶチャンスがいっぱい。また、今回初めて、研修終了後、1週間かけて大陸3000キロをバスで横断、アメリカの広大さを実感して帰国した。



チアリーダーのメンバーと、左端が近藤さん

近藤さんを学業成績優秀者に認定

OIU

エイトスクールでは、初めてカヌー体験を企画し、大自然の中で豪の生徒たちと交流を深めた。

近藤さんを学業成績優秀者に認定

ミナルバライソ大

卒業記念にハイオリティな靴を13月11日(金)4号館1階プラウジングルームで、スイスの一流ブランド・パリーのパンプス即売会が行われた。(株)パリージャパンの主催で、社会人になって1足は欲しい黒と紺の定番プレーンパンプスを2000足限定販売。学生課、学園本部事業開発推進室協力。卒業式リハールに集まった学生たちの目をひいていた。

日本は2番目の故郷

OIU 本学へ

家政学部 児童学科4年生 林 淑娟

日本での生活もあとわずか、5年の留学生生活を振り返ってみると、素晴らしい生活でもあり、苦しい生活でもあった。日本に来る前に交通便利、きれいな環境などいろいろな事を聞いてからよい印象を持った。しかし、日本に来てからは言語障害と文化風俗ととても不便だ。それでも、2、3年住み、だんだん習慣になつていくが、自分の母国の言葉を喋つてうまくできない(日本語になじんで、中国語をしゃべる時にうまくしゃべれない)しバイクに乗っても方向が反対になる。これは

留学生レポート

本学から

OIU 経営情報学部 2年次生 鄭 光家

多くの国の大学見学

僕は、自国で中学校の時から英語を学んで、今でもまだ自由に英語で会話や作文などできない。最近、テレビや雑誌で「英会話」などのコマーシャルがよくでている。たしかに、国際的な言葉と言葉は、「英語」はもう一番大切だと思える。これも僕は今回のセントルイスの研修旅行に参加する理由の一つだ。僕は日本でも日本語を勉強した経験によって、もし英語の国へ行くと、現場で英語を勉強すれば、勉強の効果がはやくて、うまくなるかもしれないと思うので、今回の研修旅行に参加

また、僕は留学生ですから、日本の大学だけではなく、もっと多くの国の大学を見学して、くらべたいことも今回の研修旅行に参加する理由の一つだ。もちろん、今回の研修旅行の中にセントルイスコミュニティカレッジでの研修したあと一週間のバス旅行にもとてもおもしろいと思うことも研修旅行に参加する理由の一つだ。僕は、今回の研修旅行の中で、アメリカの大学のいろいろなことをもっと知りたいと思う。また、セントルイスという町と現地の家庭や、人々の考え方や、生活の暮らしなども体験したいと思う。最後一週間のバス旅行によって、いい春休みの思い出もつくりたいと思う。(台湾からの私費留学生で米語研修1か月参加)

就職最前線

厳しかった5年度

就職行事に積極参加、早めに行動
クラブ活動など 誇れるものを

OIU

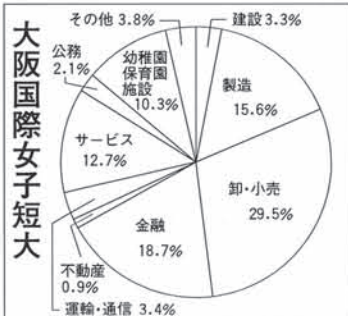
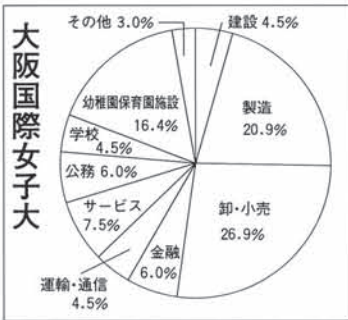
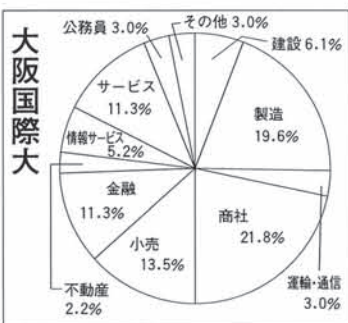
昨年度は、出口の見えない平
成不況で、どしゃ降りと表現さ
れるほど未曾有の就職難であっ
た。OIU3期生の大半が、8
月中旬まで就職活動に明け暮
れ、四季を通じ活動をしいられ
た者もあり、就職率は96%にと
どまった。

さまざまな就職行事に積極的に
参加し、早めに行動することを
希望する。業種研究、企業研究
もしないでよい就職先に巡り会
うことはない。不景気だからと
いて、総ての企業が人減らし
をしている訳ではない。適材適
所を考え、優秀な人材を余剰人
員として生み出し、その企業が
生き残りをかける新事業に投入
している企業はたくさんある。

一方、企業が評価するのは、
いかに充実した学生生活を送っ
ていたかという事に尽きる。
学生諸君、どうか目的意識を



女子大・短大では「春休みミニガイダンス」
を初めて実施。寸劇・模擬面接には約200人が
集まった。(3月2日 メモリアルホール)



求人大幅減の中で健闘

特定の業種、職種にこだわるな

OIUW・CW

今年度の就職戦線では、就職
課に寄せられる求人情報が大幅
(20%強)に減少し、このため、
女子大・短大共に縁故応募が増
加しました。卒業式当日で集計
した最終内定率は、女子大
93%・短大84%と健闘しまし
た。また事務職への内定が、女
子大▲11.2%、短大▲5.7%
前年度よりそれぞれ減少し、代
わって技術職・栄養士・教員な
どの専門職(女子大)や営業販
売職(短大)への就職が増加し
ました。

そう急速に回復しないでしょう
から、就職を希望する学生は受
け身の姿勢ではなく、たとえ求
人票が来ていない先へでも、自
らアタックして、閉じられてい
る門をこじ開けるくらいのガツ
ツがなければ、チャンスをつか
むことは難しいでしょう。
そして、自己の適性や可能性
を広くとらえ、あまり特定の業
種・職種や規模の大小にこだわ
らないことが、成功の秘訣です。
(大阪国際女子大・短大
就職課課長代理 上田弘明)

かは諸君が考え行動すればよ
い。結果は自ずからでる。
(大阪国際大 就職室課長
上西二朗)

エッセー

されど「表現力開発」

大阪国際女子短期大学講師 油谷 純子



先日、新聞で「貴ノ花よ、
大いにしゃべれ」という記事
を見た。相撲取りは無口で、
無愛想と相場が決まっている
が、彼はこの頃よく話さよう
になったそうである。最近の
Jリーグ人気を支えているの
は、そのスピード感とともに
若い選手達の明るく自己をア
ピールするトークなのだから、
日本の伝統に縛られた相

撲取り達も大いに話すべきだ
と記事は締めくくっていた。
現在は、自分の思いや考え
を相手に効果的に、正確に伝
える豊かな表現力がますます
必要とされる時代である。

私もこの短大には「表現力
開発」というユニークな科目
があり、話す能力・聞く能力
を開発することをねらいとし
ている。スピーチ一つするに

しても、話の内容だけを重視
するのではなく、表情豊かに
ジェスチャーをまじえながら
話すことによって、自分の思
いを何倍にも相手に伝えるこ
とができる。仲間うちでは、
賑やかにしゃべりに花を咲

かせる学生達も、大切なあら
たまった場面では萎縮してし
まう。米国の大統領のあの自
信に溢れんばかりのスピーチ
を思い出してほしい。内容は
ともかく、思わずひき込まれ
てしまう。表現力のなせるわ
ざだ。表現力とは、一種の演
出だともいえる。どんな場面
に追いこまれても、冷静に自
己を演出できればよいのだ
が、なかなかそうはいかない。
かくいう私も、このエッセ
イを書くにあたって四苦八
苦、今さらながら表現力のな
さを痛感している。さあ、学
生と共に、表現力開発に精を
出そう。

DATA 平成6年度入試結果

		志願者	受験者	合格者	競争率
O I U	推薦	922	863	133	6.5
	経営情報学部	16	14	14	1.0
	政経学部	533	507	112	4.5
	経済学部	9	7	7	1.0
	留學生	2(3)	2(3)	2(3)	1.0(1.0)
	一般	1,974(1,441)	1,873(1,383)	343(330)	5.5(4.2)
	一次	1,050(1,675)	992(1,574)	248(346)	4.0(4.5)
	二次	1,344(1,463)	1,193(1,311)	120(86)	9.9(15.2)
	合計	1,116(1,518)	990(1,331)	149(99)	6.6(13.4)
	特別推薦	19(23)	19(21)	15(11)	1.3(1.9)
O I U W	推薦	4,300(4,243)	3,987(3,995)	650(578)	6.1(6.9)
	経営情報学部	2,735(3,949)	2,522(3,620)	541(564)	4.7(6.4)
	政経学部	7(20)	7(20)	3(2)	2.3(10.0)
	経済学部	7(9)	7(9)	3(6)	2.3(1.5)
	留學生	242(392)	228(370)	54(44)	4.2(8.7)
	一般	197(228)	183(224)	14(13)	13.1(17.2)
	一期	425(419)	418(395)	126(135)	3.3(3.1)
	二期	237(182)	233(176)	47(48)	5.0(3.7)
	合計	150(192)	132(172)	38(33)	3.5(5.2)
	特別推薦	75(87)	66(85)	25(8)	2.6(10.6)
O I C W	推薦	824(1,023)	785(957)	221(214)	3.6(4.5)
	経営情報学部	516(506)	489(494)	89(75)	5.5(6.6)
	政経学部	6(7)	6(7)	3(4)	2.0(1.8)
	経済学部	25(2)	25(2)	11(0)	2.3(0)
	留學生	33(27)	33(27)	11(17)	3.0(1.6)
	一般	14(10)	14(10)	4(5)	3.5(2.0)
	一期	1,337(2,020)	1,136(1,602)	275(237)	4.6(6.8)
	二期	1,156(2,006)	961(1,660)	331(305)	2.9(5.4)
	合計	1,275(1,298)	1,100(1,092)	150(150)	7.3(7.3)
	特別推薦	1,554(1,738)	1,609(1,468)	362(301)	4.4(4.9)
O I C W	推薦	776(560)	736(492)	242(282)	3.4(1.9)
	経営情報学部	520(695)	488(645)	283(370)	1.7(1.7)
	政経学部	593(494)	585(432)	152(189)	3.8(2.3)
	経済学部	854(894)	828(805)	309(349)	2.7(2.3)
	留學生	2,119(2,587)	1,880(2,101)	520(503)	3.6(4.2)
	一般	1,701(2,703)	1,474(2,307)	625(675)	2.4(3.4)
	一期	1,901(1,819)	1,718(1,551)	313(356)	5.5(4.4)
	二期	2,822(2,642)	2,451(2,283)	675(655)	3.6(3.5)
	合計				
	特別推薦				

備考 (OIUW特別推薦=コミュニケーション学部・語学推薦、人間健康科学科・スポーツ推薦。OICW特別推薦=全学
科・スポーツ推薦、英語科・語学推薦)

普通科	専 門	普通科		専 門	
		受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
英語	標準	72	35	164	89
英語	1.5 次	208	*230	595	*636
英語	合計	17	13	—	—
英語	合計	297	*278	759	*725

* 回し合格者数を含む

普通科	専 門	普通科		専 門	
		受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
英語	標準	86	57	277	215
英語	1.5 次	135	*161	378	*438
英語	合計	13	9	—	—
英語	合計	234	*227	655	*653

* 回し合格者数を含む

大和田中		受験者数	合格者数
1 次	次	32	18
2 次	次	34	22
合 計	合	66	40

平成6年度

入試総括

3月16日、国際大政経学部一般二次
に挑む受験生たち



経済・経営系の私大一般入試
は、昨年度に引き続きさらに大
幅な志願者減が見られた。その
なかで例外的に志願者増が見ら
れたのは経営情報学部関係の学部
学科だった。一般一次に限ると、
本学の経営情報学部においても
37%増であったが、この理由と
して考えられることは、一つに

は昨年度の27%減への反動、い
わゆる「隔年現象」のせい、も
う一つは実学指向の高まりによ
るということではなからうか。
一方、政経学部では37%減。

「経情」増加
合格最低点アップ「政経」

(一般一次)

OIU

大学一般I期、
短大一般とも増加

本学の評価高まるようさらに努力

OIUW・CW

私立大学の総志願者は、併願
者を含めた延べ数で昨年は前年
対比18万人減り、今年もそれ以
上に減少するとの大方の予測で
ある。この要因として受験人口
の減少、国公立大学人気の定着、
併願校の絞り込みなどがあげら
れ、女子大・短大にとっては4
年制共学志向が強まる中、さら
に厳しい状況下にある。そこで、
多くの私立大学・短期大学に於
いて、大幅な志願者数の減少が
みられた。

本学の入試を選考種別ごと
にみると、推薦入試では大学・短
大とも苦戦を強いられ、大
学一般I期では昨年対比10%
増、短大一般選考に於いても3.
8%増と志願者数を増やすこと
ができた。大学一般II期では、
19.4%減となり、総志願者数
で大学・短大共それぞれ12.
4%減の厳しい結果になった。
そのなかで、大学人間健康科学
科1.4%、短大幼児教育科4.
5%、国際文化学科6.8%増
と健闘した。

平成6年度入試は幕をとし、
一部の学科(科)で志願者が増
えたものの全体的には「私大冬
の時代」を実感させられた厳し
い結果であった。

学園は健闘、小幅な減少で横ばい

多様化する選抜方式に加え、関西地区私大では、学部、学科の増設、
改組などが行われ、入試動向にも若干の影響をもたらした。受験人
口減少期に入り、全国的に志願者減のなか、国際大、女子大・短大
は小幅な減少、横ばいに落ち着いた。

一般に法学部志願者の増が見ら
れるなかで法学コースを持つ本
学部の志願者減は、昨年度の
25%増とそれに伴う合格者最低
点のアップにもその理由が求め
られようが、受験生の政経学部
に対する理解が深まっている

(大阪国際大入試室長
二階堂 洋)

という進路指導の先生方の声も
ある。
合格者最低点のアップなど、
評価すべき点はあるが、この「冬
の時代」を乗り切るためにきめ
こまかな高校訪問の徹底等、広
報活動のより一層の強化を図っ
ていかなければならないと考えてい
る。

